

飯豊地区地域農業マスタープラン

市町村名	集落/地域名	当初作成年月	更新年月(1回目)	更新年月(9回目)	更新年月(10回目)	更新年月(11回目)	更新年月(12回目)
北上市	飯豊	平成24年12月	平成25年2月	平成29年2月	平成29年9月	平成30年2月	平成31年2月

1. 地域における担い手の確保状況

担い手は十分確保されている / 担い手はあるが十分ではない / 担い手がない

2. 将来の農地利用のあり方

取組事項	対応	＜その他記載欄＞
担い手に集積・集約化する	○	
担い手の分散錯圖を解消する	○	
新規参入を促進して、新規参入者に集積・集約化する	○	
耕作放棄地を解消する	○	
その他[右欄に自由に記載]	○	

3. 2についての農地中間管理機構の活用方針

取組事項	対応	＜その他記載欄＞
地域の農地所有者は原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	・農地中間管理機構を通じて地域内に分散している農地をまとめて解消していく
農地をリタイア・経営転換する人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	
担い手の分散錯圖を解消するため利用権を交換しようとする人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	
その他[右欄に自由に記載]	○	

4. 今後の地域農業のあり方

今後の地域農業のあり方(地域の中心となる経営体とそれ以外の農業者のあり方)			コメント
取組事項	対応		
複 合 化	○	＜現状＞ この地区は、平坦な農地が広がっているなど圃場条件が良いことから、地区内の個別経営体を中心に、地区外の個人経営体、農業法人、集落営農組織への農地集積が進み、水稻を中心に土地利用型が行われています。その反面、土地利用型の農家は、経営面積が比較的大きいことから、集落営農組織への動きが弱い状況にあります。また、耕作者毎の農地が点在し集団化されておらず、生産効率面での課題があります。 一方、畜産農家は、比較的に数が多いことから、牧草などの飼料作物を生産する組織があり、耕畜連携に取り組みながら、農地の集積に努めています。このほかにも、転作田を活用して、りんごや花き等の園芸作物に取り組む複合経営体があります。 ＜今後の取組＞ ①土地利用型農業においては、農地集積の向上を図りながら、水稻についてはJA限定純情米の生産に取り組み、大豆や麦については単収増加の技術の普及拡大、飼料用米については直播栽培を導入し、低コスト・多収量生産の土地利用型農業を推進します。 ②畜産農家が多いことから、ブランド力強化の取組を推進し、畜産部門の農業所得の向上を図ります。 ③地区の一部では、りんごの生産団地を有しており、環境に優しい産地づくりに取り組むことで、安全・安心な農作物として付加価値を高め、需要の拡大を図ります。 ④花きなどの園芸作物については、農業者の仲間づくり等の取組を通じて、生産拡大によって、収益性のある地域農業の確立を目指します。 ⑤上記①～④の取組を担保するため、個人経営体の後継者育成や新規就農者の確保・育成にむけて取組を進めます。 ⑥コスト削減を目標とし、農業機械等の共同利用に向けて地域で検討していきます。	
6 次 産 業 化			
高 付 加 価 値 化	○		
新 規 就 農 の 促 進	○		
そ の 他 []			